

まだまだ青い？「2年目」子ども読書係、駆ける！

子ども読書係は、2年目になってますます「加速」しています。今回は「2年目の軌跡(輝跡?)」をダイジェスト版でご紹介しましょう。

楽しいおはなし会など

「親子で楽しむ読書教室」 県内で子どもの読書活動推進に活躍中の方々を講師に迎え、毎回、親子で楽しい時間を過ごしています。好評につき、今年度は年間6回から8回に増えました。

「おはなしだいすき！」 今年度から、おはなし会を月2回(第2、4土曜日11:00～)開催するようになりました。第2土曜日は、これまでどおり松山おはなしの会の方々が情感のこもったおはなしを行い、また、第4土曜には、新しく「県立図書館おはなし☆グミ」が楽しいおはなし会を实践中です。「県立図書館おはなし☆グミ」とは、おはなしボランティアを目指す新人の方々を、現在活躍中のおはなしグループの方々に指導していただきながら育てていくことを目的に結成したグループです。

「童話の会」 県立保育専門学校生による人形劇やおはなしの会は、小さな子どもたちに大人気です。しかし、保育専門学校が19年度で廃校になるため、11月18日を最後に30年間続いたこの催しは残念ながら終了しました。最終回は130人を超える参加があり大にぎわい。アンケートにも惜しむ声がたくさん寄せられました。



県立保育専門学校生による「童話の会」

そして、今年度のメインイベント!!『こわい? たのしい? おとうさんの絵本おはなし会』 東京から招いた「パパ's絵本プロジェクト」の3人のお父さんたちによる絵本おはなし会を、8月19日に西条市小松町で、翌20日には松山市で開催しました。県立図書館の藤田館長も飛び入り参加。とにかく楽しいおはなしに、会場の子どもたちは

大はしゃぎ! こんなに騒いでいいの?とハラハラしましたが、さすがお父さん、聞かせるところはちゃんと子どもの心を引きつけていました。「お見事!」の一言でした。

付き添いのお母さんたちが、子どもたちに負けず楽しそうだったのがとても印象的でした。家で子どもたちに絵本のおはなしをしてあげているのはお母さんだけではないはず。お父さん、子どもたちはお父さんのおはなしが大好きですよ!



安藤パパ



田中パパ



金柿パパ

ブックトーク

ところで、1年前、遅咲きながら? 華々しく?! 学校デビューを果たした子ども読書係。

平成18年度もブックトークを開催するため、6～7月、小・中学校計6校に伺いました。「たった6回か…」と思われるかもしれませんが、子どもたちの年齢や人数などを十分に検討して、紹介する本を差し替えたり、効果的な小道具を作ったりと、かなりのエネルギーを費やしています。でも、子どもたちが生き生きとした表情で聴いてくれると、その苦労も吹っ飛んでしまいます。

また、皆様がこの館報を手にとられる頃には、昨年度に引き続き、県立医療技術大学図書館との共催事業「ブックトーク&メディカルトーク」を中等教育学校や中学校の4校で実施中です。

講演会、展示

講演会『メガニューラ ～巨大昆虫の謎～』 昨年の恐竜の講演会に続き、今年度は小学生を対象に、7月29日に西予市で、翌30日松山市で開催しました。講師は、北九州市立自然史・歴史博物館自然史課長の上田恭一郎先生。先生は実に気さくな方で、世界各地でご自身が体験された出来事や博物館での苦労話を愉快地話してくださりました。

子どもたち(特に男の子)は恐竜など古生代の

生き物が大好き。図書館の恐竜の本は大人気で、その書棚は、年間通じてガラガラの状態です。

「ムシ・むし？ 探検隊」 堀之内の3館（図書館・美術館・博物館）共同企画の夏休みイベントは、昨年度から始まりました。今年のテーマは「昆虫」。美術館では、昆虫の工作「紙の造形 — ペーパー虫 —」、博物館は展示「世界各地のチョウ」を実施、そして、図書館では「ムシのふしぎ？ フシギなむし！」と題した展示。その中で実施したムシクイズやぬり絵が好評でした。

「としょかん魚ッチング」 秋には、魚をテーマにした展示を開催しました。これは、美術館開催の「魚のすがた展」（10月12日～11月26日）とタイアップして行いました。キッズひろばには、突然、釣り堀出現！ 割り箸に糸を付け、糸の先にはマグネットを付けた「釣竿」で、クリップの付いた折り紙の「魚」を釣り上げます。これが予想外の大盛況。魚を作っても作っても足りません。「子どもたちが興味を持つ遊びは、アイデア次第で作り出せる」ということを学びました。



キッズひろばに
釣り堀出現！

お役立ちリストの作成

学校や公共図書館でのブックトーク実践例が満載の『やってみよう！ブックトーク実践ガイドブック』を作成し、県内すべての小・中・高等学校、図書館等に配付しました。掲載したブックトーク実践例に使用する本や小道具などをセットにして、ご希望の学校などに貸出しています。ぜひ、学校や図書館の皆さんにブックトークを実践していただきたいと考えています。

このセットは、多くの学校で利用していただきました。ブックトークの県内各地での広がりをひ

しひしと感じています。今年度は、実践ガイドのパート2を作成しますので、お楽しみに！

毎年発行の、幼児・小・中学生向け推薦図書リスト「探検しよう！本の国」の作成準備に現在取りかかっています。加えて今年度は、乳幼児向け推薦絵本リストの作成も予定しています。皆さんのお役に立てるリスト作りを目指して、日々頑張っています。

学校との連携を目指して

ここ数年、ブックトークで学校に伺ったり、学校図書館関係の研修会で先生方とお会いしたりする機会が増えました。それにつれて「県立図書館ってこんなこともしているんだ」と、先生方に当館の存在を少しずつわかっていただけるようになってきました。そのような中で、先生方からは、総合学習等の調べ学習に使用する図書の貸出についてのご要望がたくさんありました。今年度は「戦争と平和」「人権」などのテーマでお応えしてきましたが、今後、学校での利用にお役に立てるように、調べ学習用の図書を一層充実していきたいと考えています。

今、「連携」の大切さが、いろいろな場面で叫ばれています。子ども読書系の活動においても、学校、PTA、ボランティア、図書館などとの連携は、効果的に推進していく上で欠くことはできないと実感しています。

今年度は、文部科学省委嘱の「子どもの読書活動推進に関する調査研究」事業に取り組むことになりましたが、この調査のキーワードの一つは「連携」です。学校をはじめ関係機関の多くの皆様のご協力の下、アンケート調査を実施させていただきました。年度末には結果を取りまとめ、ご報告いたします。

子ども読書係2年目も「行動あるのみ」でした。学校現場の声を聞き、子どもたちの輝く目に出会うたびに「行動する」ことの大切さを実感します。

3年目、4年目となっても、気持ちはいつまでも「青い」部分を残し、子どもたちの目線に立った仕事をしていきたい、そう考えている私たちです。

（子ども読書係 吉見 八重、東 智子）